



私たちが使った水はきれいにしてから流さないと川や海を汚してしまいます。

工場や事業場などから出る「産業排水」や、私たちの日常生活から出る「生活排水」は、処理せずにそのまま流すと、川や海の汚れの原因となります。

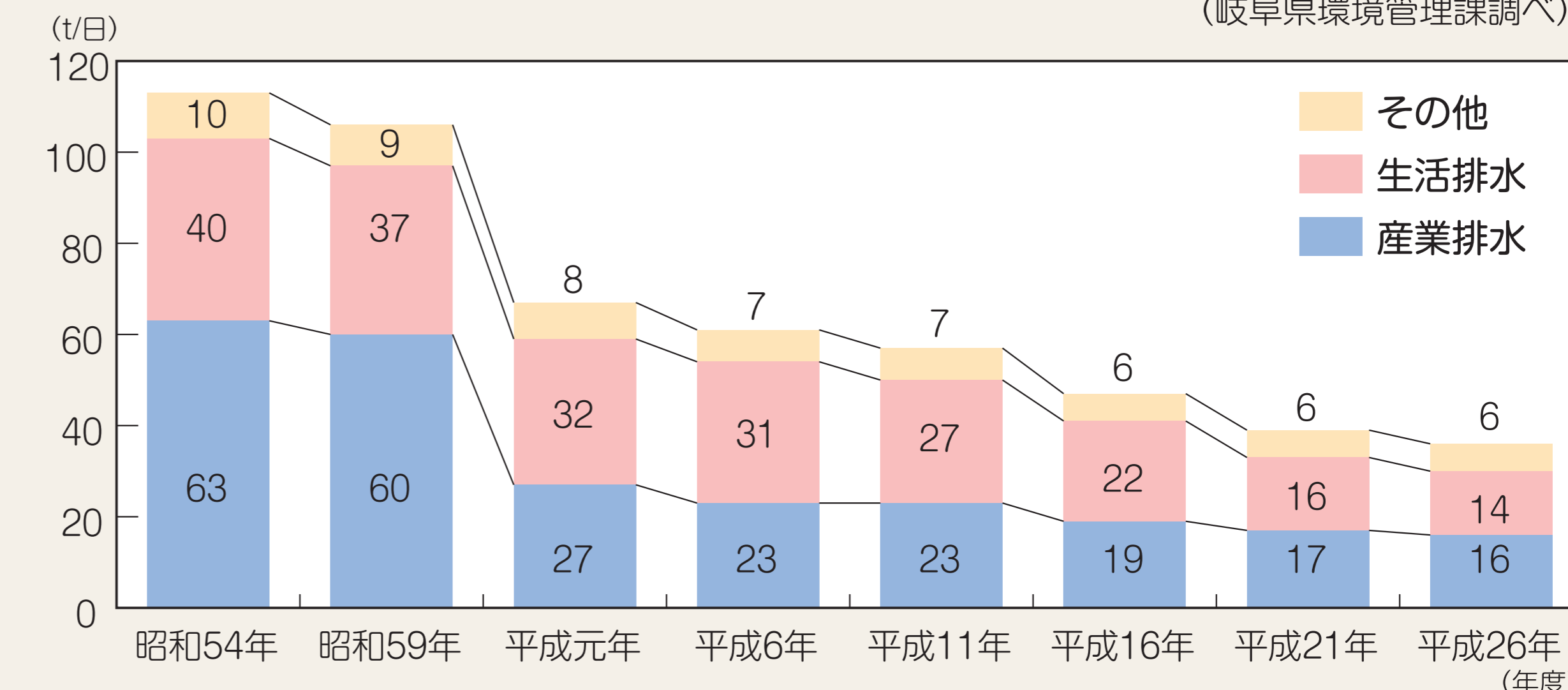
このうち産業排水に由来する汚れについては、法律による規制がされるようになったため、だんだん減少してきました。

また、生活排水に由来する汚れについても、合併処理浄化槽や公共下水道の普及により減少してきています。

しかし、これらの汚れを原因とする問題が、未だに海で起こっています。川から流れてきた汚れは、海の生き物の栄養分にもなりますが、栄養分が多すぎると、赤潮や苦潮（青潮）を発生させる原因となり、魚や貝の大量死などの問題を起こします。

■発生源別COD(※)排出実績

(岐阜県環境管理課調べ)



(※) COD：化学的酸素要求量

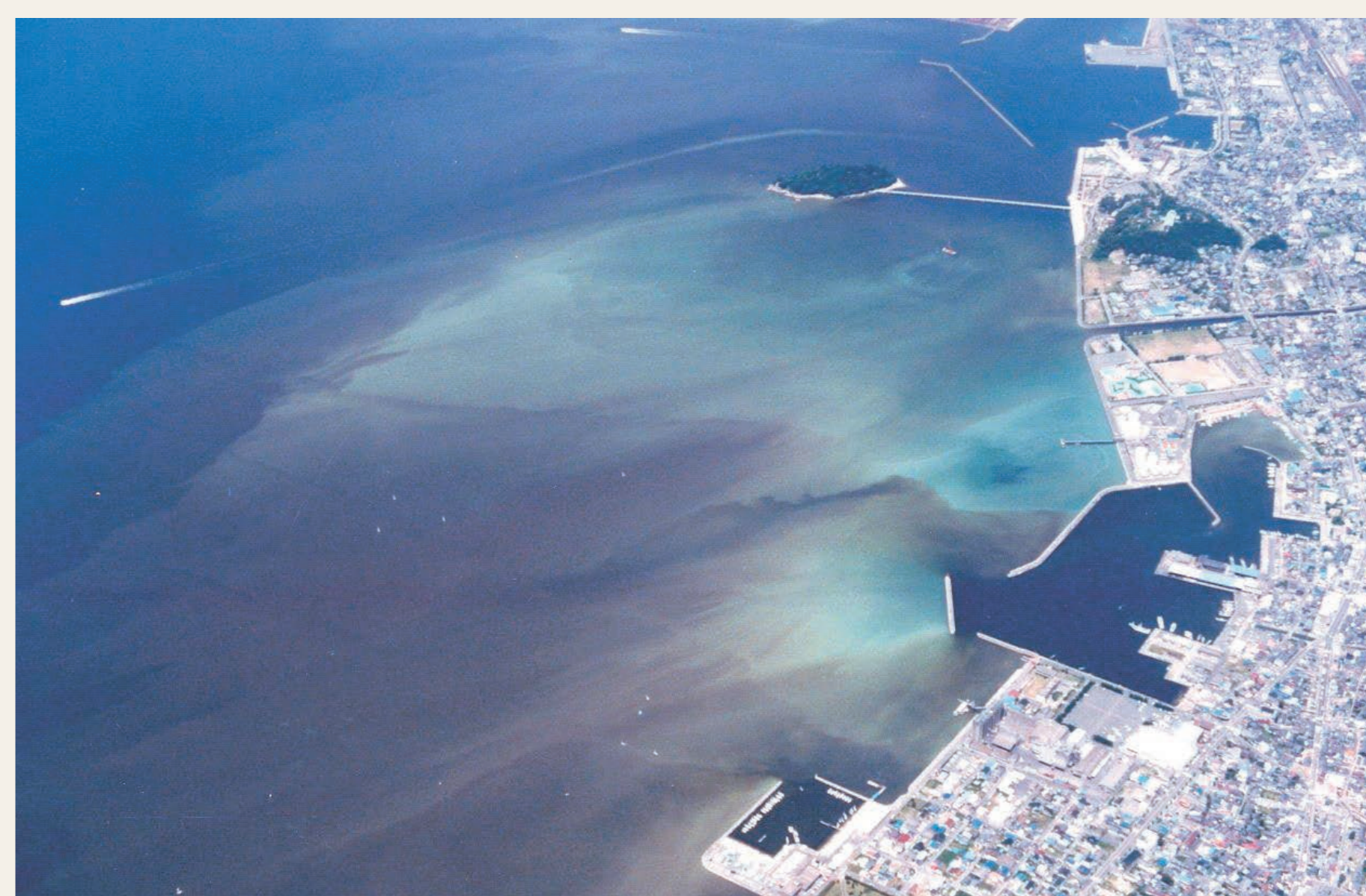
水中の汚れの程度を示す指標で、水中の汚れが酸化剤によって酸化されるときに消費される酸素の量をあらわす。数値が大きいほど、水が汚れていることを示す。



(写真：愛知県提供)

赤潮

赤潮とは、栄養分を多く含む水が流れ込むことにより、植物性プランクトンが異常に増え、海水の色が赤色になる現象です。発生した大量のプランクトンの中には、有毒物質を発生させるものもいるため、魚や貝の大量死が起こります。



(写真：愛知県提供)

苦潮(青潮)

大量に発生した植物性プランクトンは、海底に沈んで腐敗し、海底の酸素を減少させたり、有毒物質を発生させたりします。そのような状態の海水が、風などの影響で海岸の浅いところに浮き上がってくると、浅いところにすむ魚や貝の大量死が起こります。有毒物質がとても臭く、また青白く見えるため、このような現象を苦潮(青潮)と呼んでいます。

■赤潮・苦潮の発生件数(伊勢湾)

(愛知県水産試験場調べ)

